

## 第1回 安曇野市男女共同参画推進審議会 会議概要

1	委員会名..... 安曇野市男女共同参画推進審議会 (第3期)...
2	日 時..... 平成24年6月25日 (月)..... 午後1時30分から午後3時40分
3	会 場..... 安曇野市役所本庁舎 第4会議室
4	出席者..... 湯澤委員、曾根原委員、新井委員、内川委員、小松委員、尾台委員、 増田委員、板花委員、中田委員、森田委員、中村委員、北澤委員、 伊藤委員、臼井委員、柳原委員、北林委員... .....(欠席委員) 幅委員.....
5	市側出席者..... 宮澤市長、宮田部長、平川課長、丸山課長補佐、古川主事... .....(株式会社ぎょうせい) 今中主任研究員、浅水研究員.....
6	公開・非公開の別..... 公開.....
7	傍聴人..... 0人..... 報道機関..... 0社.....
8	会議概要作成年月日..... 平成24年7月20日.....

協 議 事 項 等	
◇	概要
1	開会 (課長)
2	審議会委員委嘱 (宮澤市長)
3	市長あいさつ (宮澤市長)
4	自己紹介
5	協議事項
	(1) 会長、副会長の選出について
	(2) 安曇野市の男女共同参画の推進について
	ア 安曇野市男女共同参画推進条例について
	イ 安曇野市男女共同参画計画 (H20~24年度) について
	ウ 推進体制について
	エ 平成24年度推進計画について
	(3) 第2次安曇野市男女共同参画計画策定について
6	閉会 (尾台副会長)
◇	審議概要
	(2) 安曇野市の男女共同参画の推進について
	(委員) 昨年から委員に参画させていただいているのですが、いわゆる連絡協議会ならびにコミュニケーターの皆さま方が地域に入ったときに、我々に対するアクションがあまりないんですね。講習会で男女共同参画のPRをする程度で終わり、せっかく集まった皆さんに対して気持ちを打つような表現での話し方はないわけです。自治会組織において、35%の女性の登用を目指していくことを今まで言われてきたけれども、ほとんどが男性中心になっているわけです。

一方で女性の人をお願いしても参画してもらえず、うちのお父ちゃんが、ということになってしまいます。このままで5か年計画といっても絵に描いた餅ではないでしょうか。自分から何とかしようと、区の中で役員を選考するうえで、各地区から2名ずつ女性を選考委員で登用して、その意見を聞こうという組織づくりをしています。区長会は女性で1人だけとなっており、去年までは3人いましたが減ってしまい、せっかく増えても、後追いをしようという働きかけは何にもありませんでした。地域に根差した男女共同参画をやっていかないと、いつまでたっても夢物語で終わってしまうので、地域に働きかけをするような方法を考えてもらわないと非常に難しいのではないかと思います。

(事務局) 以前からそういう話が出ていましたが、区の役員をお願いすると、女性がなかなか出てきてくれないということがあります。区の役員の中にも色々な役職があると思いますが、役員で女性が1人もいない区もあるし、複数いる区もあります。区の役員の中に女性をいれるということと、女性においても嫌がらず受けるということも大事です。その両方をうまく進めるよう、みんなで考えていく必要があると思います。

(委員) 推進審議会の17名の色々な立場の方が、任期中にどのような行動をとったか、どのような地域に働きかけ方をしたのかという、検証をすることが必要なのかと思います。家庭から始まって地域の色々な組織に関係している中で、実績を積み重ねていくことが必要だと思います。女の人でなければ出来ないということではなく、出来る範囲で色々な平等公平な活動が進められればと思います。福祉活動や文化活動など色々な活動がなされていますが、男女の割合が本当に極端なところがあります。現在、私も講座を受けたり、サークルに出たりする中で、ほとんど女の方ばかりだということがあります。男の方の意識改革もしなければいけませんし、女性についても自分達の城ということを守ってはいけないという気がします。

(委員) 各地区で男女共同参画の活動ができる場所があると思いますが、私の地域の場合は、文化祭では男女共同参画の掲示板を出したり、現在も学習会をやったりしています。民生委員など、女性で活躍されているところから始めた方がいいのではという声もあります。女性が出ていく時の男性のサポートが欲しいなという感じがあります。地域の人権教育の場で男女共同参画も一緒に勉強させていただこうとしましたが、なかなか入れませんでした。

(委員) 女性が来ないという意見がありましたが、私たち女性の役員さんがなかなか出て来られないその根っこには、家事があると思います。朝昼晩のご飯の支度の時間帯を考慮に入れながら、家事を済ませて夕方に出たり、昼に出たりする比重が高いかと思います。今までの男性社会という時間の流れで、皆さんの集まりやすい時間となると、仕事が終わってからということになるので、そここのところについて、男性の育児や家事がもう少し普及していけば、女性の役員さんも出て来られるようになるのかと考えます。

(会長) そうですね。私もそうですが、家にいるために、家族にごはんを作るのはいやだなと思います。代わりにご飯をつくるなど、男性には協力していただいて、女性の背中を押してくれるようになれば、良いのではないかと思います。

(委員) 私は10年くらいボランティアやっていますが、最初はやっぱりだめでした。でも今はお米が研いでいないと、主人が研いでおいてくれたりと、ここ数年で協力してくれるようになったので、我が家でも男女共同参画が進んできたかなと思っています。

(委員) 安曇野市の農業委員が選挙で決定しましたが、女性が1人もいないんです。合併前に私の地域では女性2名を農業委員に内部推薦であげてくれるよう工夫しました。農業委員に限ら

ず、行政の関わりが出てくるような組織のところに、少しでも機会があればその都度理念を提示していくことが必要だと思いますので、よろしくお願いいたします。

(会長) 農業委員で女性が誰もいないというのは、ちょっと残念ですね。

(委員) 今は4人活動しています。今と同じ程度に当然また判断していくわけですが。

(会長) そうですか。女性がいない団体というのは良くないので、入れていただきたいと思います。

今のご意見のように女性の方からも力を入れていただくのは、大事なことではないかと思いません。

(委員) 国なり県なり市町村がこれだけ取り組んでいるということを見せていただきましたが、一番末端である家庭内の個人の中に、果たしてどのくらい男女共同ということに対して、支えあうという空気が浸透しているのかと思いました。たとえば夜の会議に行くときも、今夜は俺じゃなくてお前が行って来いとか、そういう中から役員を選出などがあり、自分が参画している会議が男の人ばかりだから、女の人に入ってもらおうとか、女の人の中で私もやってみようといった、草の根での個人の気づきができていないように思えます。あらゆる機会を捉えて、ほんのちょっとでもいいので、そういうことを考えていただくようなことを取り組みの中でしていただければと思います。

(委員) 男女同権と言われてもう70年経っています。女性がなかなか進出していません。なぜそんなふうになったかを色々考えると、女性は若い頃は普通なんです、ある程度の年代になると解放されないんですよね。家庭の家事や雑用から解放されないと、女性の進出というのは難しいと思います。今の若い新婚の方だとか、30、40歳くらいの若い世代は、共同で炊事をやったり、洗濯をやったりと家事を手伝っています。なぜそうなるかという、学校の教育によって、洗濯や家事を男もやらなければという意識にだんだんとなってくるからです。今の若い人たちが我々くらいの年代になると、かなり変わると思います。小学校や中学校で、男女一緒に家事をやりなさいといわれなくても、年を取ってから急に言われてもなかなか動けないので、教育をそういう形でやっていくと、段々と良くなると思います。

(会長) いまの若い人たちは二人で料理をしたり、子育てもよくやっていると思います。小さい時からしつけしていけば良いのは、確かにその通りです。私たちの年代になると、頭が固くなり非常に難しいとの思いです。

(委員) 制度が変わったり、慣行が変わればすぐこういう問題が解決するというだけでもないと思うんです。男性も女性も意識を変えてもらうということだと思います。その仕事が僕らの今の役割であり、意識を改革してもらう時に、啓発のお手伝いをしていくということが今の段階かと考えています。

(委員) 私たち女性も同じ土俵に立てるように、まずは家庭の中から、自分が声をあげていくということを意識し、他の誰かがやるのではなく、私たち自身がやっていくということがなければ、男女共同には近づいてはいかないと思います。

(委員) 今日新しく聞くことが多いのですが、その中で感じるのは、選ばれた人だけで会議をしているから、その頭で考えられる人はわかると思いますが、一番底辺の人が出られないと意味がない。若い人は共同できるような生活状態できており、大体が二世帯住宅になってきたということもこういうことが出来ないという原因だと思います。逆に言えば、若い人たちは教育しなければと。この中の委員の半分を若い人たちで組めるような体質につくるとか、聞いていて感じました。

(3) 第2次安曇野市男女共同参画計画策定について

(委員) 国の計画の中で、日本から何人か海外派遣として参加しているわけですが、安曇野市としてそういう外国への派遣をしていくようなかたちはあるのでしょうか。公募ということだと思うんですけども。安曇野市では行ってないと思うんですが、女性の海外派遣の制度がありますので、共同参画や少子化問題とか色々含めて、北欧とかドイツなどの福祉の先進地へ行って、外へ目を向けることの予算的なものとか、市として厳しい予算ではあっても、視野を広げていくということでも、非常に大切なものだと思います。今後の課題として市の方でもお考えいただきたいと思います。

(会長) 市の方での予算じゃなかったんですが、結構安曇野市では参加しています。ドイツに行って、その後は行ってないんですけど。何回もあちこち行って講演しました。

(事務局) ご意見としてお聞きをしておきます。

(研究員) 国際女性教育振興会さんが主催されている、そういったものに、他市も補助を出しているということですか。

(会長) 今はちょっとわかりませんが、今までは出ていて。安曇野市はそういうお金は出ません。

(委員) 公的に予算の保証をちゃんとしてもらうとかやっついていかないと、ちょっと遅れちゃいますよね。

(研究員) 安曇野市の合併前に他の大きい市としてそういう制度をやられていて、町村ではそういうことをやっていなかったということが、もしかしたらあるのかもしれない。安曇野市は大きな市になったので、市に見合うような制度という気もするので、こちらの方も市の方と勉強させていただいて、もし良い制度であれば、動いていただければありがたいと思います。

(委員) 外国人との共生ということなんですが、外国の方は1,600人いらっしゃるということですが、体調が悪くなったり、いろいろな問題が起きているのが現実だと思います。そういう時の相談というのは、どこかの課でやっているのでしょうか。やはりボランティアでやっているのでしょうか。

(事務局) 総務課の中に、都市交流国際係というものがございまして、常時開設というわけではありませんが、外国人の生活相談的な部分でそういったものがあれば、その都度職員がご相談に乗っていくことはやっています。

(委員) 各地区にはないですね。

(事務局) 各地区ではやっていないです。いわゆる派遣の皆さんについては、専属にまとめてみられる方がおられるということなんですね。個々の方で生活上の相談があれば、対応できる体制にはあります。

(委員) 色々なトラブルがあるようなんですが、総務課と各団体のところで把握していただいていますか。

(事務局) ちょっと団体の方はわからないんですけども、市では外国語をしゃべれる職員がいて把握しています。

(委員) 市から頂いたパンフレットに電話をかけて相談できる施設が2か所載っています。電話をすれば、その場所を教えていただけると思うんですけど。弁護士さんもつけてくれたりとか、生活とか健康とか、子どものこととか色々書いてありまして、あることは事実です。

#### (4) その他

(事務局) 計画策定に当たり、ぎょうせいさんの方で各地域やその他団体の人の話を、お聞きしたいということです。審議会の委員さんにもお声をかけますので、そちらでも意見を聞かせていただきたいと思います。審議会は計画策定で3回開催する予定になっています。次回以降、皆さんの意見を聞きながら進めたいと思います。

(委員) 男女共同参画が進んでいない機関とか団体に対して、男女が同じように機会を持ったり、能力や努力が評価されるようなポストに登用するようにやってもらいたいという、要望書を審議会が出すような方法はいかがでしょうか。審議会の文書があれば、何かそれについて真剣に取り組む姿勢になるのではないかと思います。

(事務局) 審議会が団体に対して要望を出すことができるのか、疑問が残りますので、検討させていただきます。

(研究員) 男女共同参画を推進させるために、低いところを底上げすることも大事だと思うんですが、良いところを伸ばすというか、頑張っていらっしゃる方を取り上げるとか、そんなことも良いのではないかと思います。改善のために要望書を出すという話もありましたが、効果もあるかと思いますが、厳しいなという印象もあります。計画の中に色々アイデアを盛り込めたら、盛り込んでいきたいと思えますし、皆さんの方からもアイデアをいただけたらありがたいと思えます。